

病 理 部

1. 基本研修体制

- 1) 病理部での研修は、選択科目として1ヶ月～11ヶ月間履修できる。病理基礎研修1ヶ月、病理専門研修(関連病院病理部研修を含む)1ヶ月～10ヶ月とする。
- 2) 基本・必修臨床研修では、医師に必要な幅広い診療知識および技能を修得するとともに、病理診断の必要性・重要性を臨床サイドから認識して頂き、病理基礎研修では、臨床医として必要とされる病理学的基礎知識と技術を修得する。その後の病理専門研修では、病理医としての専門知識を修得するために病理組織診断ならびに病理解剖を実際に担当する。
- 3) 個々のローテーションプログラムは、各人の希望を尊重し、当部の責任の下、該当各科・関連病院との協議のもとに研修センターを調整の核として作成され、柔軟に運用される。
- 4) 研修医の所属は、病理部、研修センターのいずれでも良いものとする。
- 5) 病理組織診断に関しては担当病理医が指導にあたり、細胞診・標本作製・電顕等特殊検査に関しては担当技師および担当病理医が指導にあたる。

2. 研修目標

- 1) 患者と直接接する機会の少ない病理医にとって、病理診断に必要な情報は依頼書および臨床医から直接得る以外にない。そのためには病理医として必要な基本的な診断法・手技を熟知するばかりでなく、臨床医との円滑な情報交換が必要とされる。基本・必修臨床研修中は、臨床知識の修得のためばかりでなく、実際の患者の検査・治療を通して医師としての自己の確立に努め、さらには臨床サイドから病理サイドに要求される点はどのようなことかを認識して頂く。この臨床研修期間を通して、病理診断の重要性を再認識することにより、病理研修に対するモチベーションを高める。
- 2) 最終的には、病理研修を通して、人体病理に対する幅広い知識を修得するとともに、疾患の最終診断、発症機序の理解、治療方針の決定、予後の判定に寄与することを目標とする。
- 3) 具体的目標
 - 3-1. 病理所見のとらえ方(肉眼的所見、組織学的所見)の修得。
 - 3-2. 術中迅速診断法(遠隔病理画像診断を含む)の修得。
 - 3-3. 細胞診診断法の修得。
 - 3-4. 1症例以上の病理解剖を実践し、臨床病理症例検討会(CPC)を担当する。
 - 3-5. 症例および研究成果の学会報告と原著論文の発表。

3. 研修・週間スケジュール

1) 研修スケジュール

病理基礎研修

1ヶ月目：病理検体(細胞診を含む)の取り扱い方および病理組織診断に必要な標本作成法、染色法、病理所見の取り方について習得する。細胞診、免疫組織化学、電子顕微鏡診断、病理解剖についての基礎知識を修得する。

病理専門研修

2～4ヶ月目：病理標本作製、病理組織診断、細胞診の実践と病理専門知識の習得。

5～11ヶ月目：病理解剖の実践、病理解剖報告書の作成、GPCでの症例提示の実践。

2) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病理診断検討 手術検体切出	病理診断検討 手術検体切出	病理診断検討 手術検体切出	病理診断検討 手術検体切出	病理診断検討 手術検体切出
午後	生検材料切出 組織診断	生検材料切出 組織診断	生検材料切出 組織診断	生検材料切出 組織診断	生検材料切出 組織診断
外来					

病理部指導責任者 病理指導医：三代川齊之 教授 (病理部長)

指導教員数計： 1名

指導補助技師数： 4名

病理部についての質問は e-mail：nao@asahikawa-med.ac.jp

または TEL：0166-69-3390、FAX：0166-69-3399 三代川齊之まで。